

<全体分析>

試験時間	100分	解答問題数	4題
------	------	-------	----

<p>解答形式 全問記述式。</p> <p>分量・難易 (前年比較) 分量 (減少・やや減少・変化なし・<b>やや増加</b>・増加) 難易 (易化・やや易化・<b>変化なし</b>・やや難化・難化)</p> <p>出題の特徴 昨年は出題されなかった場合の数・確率からの出題があった。それ以外の3題はすべて図形に関連した問題であった。 第2問は領域上を動く点に対してある図形量の範囲を求める問題だが、この形式は昨年の第1問と同様である。また、第4問は2つの動点に対してベクトルの関係式で与えられたある点の領域を求める問題であるが、この形式も昨年の第4問と同様である。</p> <p>その他トピックス (入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など) 第1問 (図形) は理系の第2問と同内容であるが、座標や変数が設定されており若干解きやすくなっている。</p>
---

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	平面座標・図形 微分法	数学 II	(1)は面積の条件から $p, q, r$ の関係式および $p, q, r$ のとりうる値の範囲を求める問題。(2)は3次関数の最大値・最小値を求める問題。	やや難
第2問	軌跡・領域 ベクトル 積分法 三角比	数学 I 数学 II 数学 B	内積や距離の条件で定められた領域 $D$ を図示し、面積や $\cos \theta$ のとりうる値の範囲を求める問題。	標準
第3問	確率	数学 A	正八角形の頂点上を動く点 $P$ が、10回の操作で初めの点に戻る確率。反復試行の確率。(2)は $S \cap T$ に注目するとよい。	やや易
第4問	軌跡・領域 ベクトル	数学 II 数学 B	平面上の領域 $D$ 内を動く2点 $P, Q$ に対して、 $\vec{OR} = \vec{OP} - \vec{OQ}$ を満たす点 $R$ の動く領域を求める問題。(2)の証明問題はどこまで説明すればよいかの判断が難しい。	標準

※ 難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

標準的な問題学習をしっかりと積み重ね、ミスなく処理できる力をつけることが大切である。図形問題についてはよく演習しておくとうい。
---